



ペテン師



1 その男は恋人と別れた さよならの口づけをして  
 髪のをやさしくなげていた その時 男は心のどこかで  
 赤い舌を出して笑った そうさ男は自由をとりもどしたのさ  
 そうさ男は人生のペテン師だから このいつわりもいつの日にか  
 ありふれた思い出に すりかえるのさ

2 その男は女房をもらった 人様もうらやむほどの  
 すばらしくきれいな女をね けれども男は心のどこかで  
 寒い風が吹くのを知った

※そうさ 男は自由を 手離しちまった

そうさ 男は人生のペテン師だから

ひとりぼっちの幸せを たいくつな毎日にすりかえたのさ

※印くりかえし